

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

| | |
|-------|---|
| タイトル | GHG 監査者のトレーニング：プログラム要求事項と監査者の権限 GHG Auditor training: Programme requirements and auditor competence |
| 主催 | IETA (International Emissions Trading Association) |
| 日時 | 2004 年 12 月 9 日 (木) 11 : 00 ~ 13 : 00 |
| 主要討論者 | Mr. Gareth Phillips (SGS)、Mr. Douglas Stilwell (International Paper)、渡邊 格氏 (JQA)、Mr. Werner Betzenbichler (TUV) |
| 傍聴者 | 約 15 名 |
| 目的 | GHG バリデーター、ベリファイヤーの訓練プログラムや課題を紹介。 |
| 発表の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 各組織の訓練プログラムの紹介。 ・ バリデーター・ベリファイヤーの養成には、教育と実務の重要性、OE 固有の訓練、バリデーション・ベリフィケーションの経験の蓄積が必要。 ・ トレーニングプログラムにはバリデーション/ベリフィケーションの別、基本と応用のコース分けなどが必要。 ・ 制度の課題としては、ガイドラインの整備の遅れ、業務を行いながらソフトウェア開発をしなければならないこと、OE 間の能力が不明確であること、モニタリング方法論の承認ラインの不明確さなどが挙げられた。 ・ 事業者側の課題としては、データの透明性、ベースラインオプション選択時期が遅いこと、ソフトウェアやコンピュータへの理解不足、ベリフィケーションプロセスへの過度の期待など。 ・ ベリファイヤー側の課題としては、資格要求事項が不明であること、「Conflict of interest」の誤解、責任事項が不透明であることなどが挙げられた。 ・ バリデーター、ベリファイヤーをいかに訓練するかについては、「数ある項目のうちから、どれについて検証をする必要があるかを見極める能力が必要」「OE チームメンバーのマネージャーは CDM の経験を積んだ人間が務め、チームの質の向上を図る」「国際的な資格制度が必要」などの意見が挙がった。 ・ 一度方法論が承認されたら、その国のエネルギーに関するデータは同じものが使われる可能性があるのではないかと、との質問に対し、「プロジェクトでは直近のデータを使用するようになっている。そのデータが本当に使えるデータなのかを確認することになる」との回答があった。 ・ OE が検証を行う責任の範囲について、「全ての情報を OE が入手できることはありえない。全ての責任を取ることは難しい」との回答があった。 |
| 資料 | なし |